

母

VOL.2

子育てのための人間学

一流選手の親が語る いかにして子どもの力を伸ばすか

池江美由紀 池江璃花子さんの母 & 杉山美沙子 杉山愛さんの母

母が教えてくれたこと 娘が与えてくれたもの

岸田ひろ実 ミライロ講師、日本ユニバーサルマナー協会講師 & 岸田奈美 作家

父親の第一の仕事は妻を笑顔にすること

高濱正伸 花まる学習会代表

「お母さんの言葉」が子どもの可能性をグングン引き出す

西角けい子 ステージメソッド塾代表

子どもの脳と心を育てる素読の力

川島隆太 東北大加齢医学研究所所長 & 斎藤孝 明治大学教授

幸母と子の
幸せな人生のために



父親の第一の仕事は妻を笑顔にすること



高濱正伸

花まる学習会代表

「メシが食える大人を育てる」という理念の下に、「花まる学習会」を設立。これまでに三万人以上の子どもたちを教えてきた。高濱正伸さんは、同時に家庭のあり方や育児に悩む親世代にも向き合つてきました。社会環境が変わつていく中で、安定した家庭、子どもの幸せの実現には、父親の役割が大切だと説く高濱さんに、父親ができる最高の子育てについて教えていただきました。

子どもの成長は家庭の安定にあり

どんな時代でもメシが食べられる、生き抜いていける子どもたちを育てたい――その思いで、私が学習塾・花まる学習会を立ち上げたのは一九九三年のことでした。

以来、主に東京都や埼玉県に教室を開しながら、「作文」「読書」「思考力」「野外体験」を中心とした教育に力を注ぎ、これまで四歳から十五歳の生徒たち三万人以上を教えてきました。おかげさまで、いまでは教室も全国百七十か所まで広がっています。

そして多くの子どもたち、親御さんと向き合ついく中で実感してきたのは、いまの家庭の九割が何らかの問題を抱えている、うまくいっていないということです。

核家族、共働き世帯が増え、皆仕事で忙しく、そもそも時間的にも精神的にも家族と関わることが困難になっているのです。妻や子どもとうまく関係がつくれ

ず、家庭に自分の居場所がない、家に帰るのが億劫になる「帰宅拒否症候群」に陥る父親も増えています。

こうした父親不在の家庭で、子どもを育てている母親もまた非常に孤独な状態にあります。日本では、昔から子育ては地域社会で協力して行つていました。子育ての経験に乏しい若い母親でも、周りの人たちが支え、「その辛さ、分かるわ」と共感してくれたことで、すっと不安やストレスが解消されました。

しかし、いまは仕事で父親もいない、核家族化で祖父母もいない、隣にどんな人が住んでいるかも分からず、自分も働きに出なくてはならない社会環境になり、家庭で一人っきりの母親が眞面目に頑張って子育てをしようとするほど、精神的に追い込まれてしまつていています。ここに現代の子どもを取り巻く問題の根っこがあるように思います。

どんなに時代が変わつても、子どもたちに変わつたところはありません。むしろ社会環境の変化により、家庭環境が変わつてることに私は危機感を覚えるの

です。

実際、どんなに熱心に勉強を教えても、結局その子の家庭環境がガタガタだったり、成績もうまく伸びていません。成長段階にある子どもにとって、家庭環境が安定していることが、学力を上げるうえでも心の成長にとても何より重要なことです。

花まる学習会でも、家庭環境の安定した子どもとそうでない子どもとでは、やはり学力の伸びが違います。そして、子どもの成長にとって何より重要なのが、母親がいつも笑顔で精神状態が安定していることであり、母親と良好な関係を築けていることです。

アメリカのハーバード大学が二〇一二年に発表した「何が人を幸せにするか」という興味深い調査があります。これは七十五年をかけて、二百六十八人の男性について大学在学時から社会人になるまでを追跡し、IQ（知能指数）や生活習慣、家族との関係などあらゆる角度から分析したものです。

その調査でも、「現在温かな人間関係

たかはま・まさのぶ 昭和34年熊本県生まれ。東京大学・同大学院修士課程修了。平成5年「数理的思考力」「国語力」「野外体験」を重視した学習教室「花まる学習会」を設立。著書に『お母さんのための「男の子」の育て方』(実務教育出版)「父親ができる最高の子育て」(ボブラン新書)など多数。

家庭での父親の最も重要な仕事は、中途半端に家事・育児を手伝うことではなく、あくまで「妻を笑顔にすること」



笑いも交えながら聴衆に熱く語りかける高濱氏の講演会

す。
とはいっても特別なことをする必要はありません。例えば、仕事の帰りに「たまたま見つけたから」と好物のお菓子を買って帰つて感謝の気持ちを伝えたり、

「あれ大丈夫だった?」と気遣う言葉を

さりげなく掛けたりするだけで十分に思

いは伝わるもので。

女性と男性の違いを認識すべし

それから、夫婦関係をよくするために大事なのは、特に子育て中の女性・母親と男性とでは、物事の考え方・見え方が大きく異なることを認識することです。これも多くの母親と接する中で教えられました。例えば、誰かに話しかけられても、新聞やスマホを見ながら顔も向けて返事をする、というのは男性の世界ではよくあることかもしれません。女性からすると非常に腹が立つ態度に感じます。

それに子育て中の母親は、子どものこ

とに関して公平な判断ができなくなりが

ちです。幼い子どもと一緒に皆で川の字になつて寝ている時でも、母親はともすれば寝返りを打つて子どもにケガをさせるのではないか、というくらいの神経を使っています。そういうことを父親はあまり考えません。

ですから、生徒の母親や父親と面談などをする際には、「お互いに別世界の生き物だと認識し、何があつても子どもの幸せのために頑張るパートナーだと思ってください」と伝えています。お互いに違う存在だと認識すれば、大概のことは許容できるようになります。

また、男性は何事も論理的に考えたり、何らかの結論を出したがるものですが、

を築けている」というポイントが高かつた男性の年収は平均して十四万一千ドル（千四百四十万円程度）で、高年収だといふことが明らかになりました。さらに幼少期に母親と温かい関係を築いていた男性は、そうでない男性と比べて年収が平均八万七千ドル（八百九十万円）も高いという結果が出たのです。

将来、子どもが仕事で成功するかどうかかも、母親との関係に左右されると言えそうです。

幸せな家庭を築くヒント

では、社会環境が変わっていく中で、子どもの将来を左右する安定した家庭環境、良好な母子関係をどうすれば実現できるのでしょうか。

私はここに父親の大きな役割があると思っています。ただ、いま流行りの家事・育児を積極的に手伝う「イクメン」になれと言っているのではありません。家事・育児への参加をあまりに意識し過ぎると、それが得意ではない父たちにとっては

伝うことではなく、あくまで「妻を笑顔にすること」、母親が安心して家事・育児に取り組めるよう全力で支えてあげることにあると私は考えています。

そのため大事なのは、夫婦関係を恋愛の延長で捉えたり、家庭を安らぎの場であると認識することを思い切つてやめ、夫婦関係や家庭を日々働いている職場と同様の「戦場」であると捉え、子どもの将来のために「妻を本気で笑顔にするんだ」「俺は妻のためならなんでもできる」と、覚悟を決めることです。これが安定した幸せな家庭を築く第一歩になります。



「作文」「読書」「思考力」「野外体験」を中心に捉えた教育に力を注ぐ

逆に負担や自責の念に繋がってしまうでしょう。

それに日々仕事に追われている父親は、いくら家事・育児を手伝いたいという思いがあったとしても、余裕がないのが現実です。

実際、自分はイクメンだと宣言して一所懸命手伝いをしている父親がいる家庭

でも、母親に話を聞いてみると、「全部

中途半端だから、結局、掃除でも何でもやり直しています」という声をよく聞きます。ですから、家庭での父親の最も重

要な仕事は、中途半端に家事・育児を手

伝うことではなく、あくまで「妻を笑顔にすること」、母親が安心して家事・育

児に取り組めるよう全力で支えてあげることにあると私は考えています。

そのため大事なのは、夫婦関係を恋愛の延長で捉えたり、家庭を安らぎの場であると認識することを思い切つてやめ、夫婦関係や家庭を日々働いている職場と同様の「戦場」であると捉え、子どもの将来のために「妻を本気で笑顔にするんだ」「俺は妻のためならなんでもできる」

父親ができる家庭での大事な役割・仕事は、忙しい中でも時間が許す限り子どもと向き合つて遊んであげることです



子どもたちの生きる力を育む、花まる学習会の野外体験

には侃々諤々しかありません」と。日頃から厳密で正確な言葉遣いをしつかり教えているからか、その子はその後成績もすごく伸びていきました。やはり学歴は結果です。親から子へと言葉に厳密な文化が受け継がれていくからこそ、子どももまた受験や就職などで成功していくのです。

そうした言葉の厳密さ、論理的思考を教えるのは、一般的には母親より父親が

女性は必ずしもそうでない場合があります。妻が家庭のことや子どものことを相談してきた場合にも、早急に結論を出そうとしたり、理屈で返したりしてはいけません。とにかく妻の話を聞き、共感してあげる。そうすることで自然と悩みが収まっていることが多いります。

もう一つ大事なことは、どんなに仕事で疲れていても、忙しくても、妻の相談事から逃げないで向き合うことです。「もういいから」と言われても、「どうしたの?」「何かあったの?」と心理的な距離を詰めていくことで、「あなたのことが心配なんだよ」というこちらの思いが伝わり、妻の心も自然と落ちしていくのです。

反対に「きょうは疲れているから明日

にして」などと妻を遠ざけようとすれば、まるで猛獸のように首にがぶりと噛みつかれ、より状況が悪化してしまいます。

父親との遊びは最高の教育

もう一つ、父親ができる家庭での大事な役割・仕事は、忙しい中でも時間が許す限り子どもと向き合つて遊んであげることです。

花まる学習会で、途中からぐーっと伸びていく子どもの共通点は何かを考えると、伸びていく子どもには、小さい頃に両親、特に父親とのコミュニケーションや遊びを通じて、いろんなことに興味関心を持ち、ぐっと物事に集中したり、没頭したりした経験があります。学校の宿題を伸びます。なぜなら、人間は世界を

題を真面目にやるようなタイプよりも、やんちゃ坊主で走り回つていたようなタイプの子が意外に中学生、高校生になつてぐっと伸びてくるのです。

特に日頃、家庭の中で親としつかりした会話やコミュニケーションをしている子は伸びます。なぜなら、人間は世界を言葉によって把握し理解しているからです。

花まる学習会で行つてゐる「雪国スクール」に、父と息子で参加している親子がいました。雪国スクールでは家庭ごとに雪の像をつくるコンテストをするのですが、その親子の会話に私は驚きました。息子が「作戦を立てて『喧々諤々』で話し合つたから、早くつくることができたね」と言つたら、父親は、「『広辞苑』

何かに没頭した経験が子どもの財産になる

得意とするところです。ですから、父親は子どもと論理的で正しい言葉で会話をし、例えば、思考力を高める将棋や囲碁といったボードゲームなどで遊んであげる時間も積極的につくつてほしい。「ここに打つたら、パパはこう打つよね?」「いやいや、ここに打つたら、こっちが取られるよね」などという会話を交わすことで、社会で生き抜くために必要な論理的思考力が子どもに育つていきます。

そして、日々子どもたちを見ていると、勉強でも何でも「補助線」が浮かぶかどうかが大きな差になつていて感じます。

補助線というのは、見えないものが見える力のことをいいます。この力がある人は、同じものを見ても、違う世界が見えているんですね。H氏のように、何もない平原でも、「あそこに秘密基地をつくりうかな」と自由に思い浮かべて、それを自分の力で実現していく。これは塾で計算ドリルを解いているだけではなく、自分で自分の力で実現していくだけではなく、自分につかない力です。ぜひ父親は子供を外に連れ出して、一つのことに没頭できる遊びを体験させてあげてほしいのです。

例えば、IT業界で活躍し、いま多方面で才能を發揮しているH氏は、子どもの頃、地面を掘つて地下室つきの秘密基地をつくることに没頭していたそうです。

とはいって、遊ぶことが本当に子どもの成長に繋がるのか、塾で勉強させていた

ほうが将来よい大学に入れ、よい人生を歩めるのではないかと思う親御さんも多

いことでしょう。

しかし、父親と子どもが遊ぶことの大切さを示す驚くべき事実があります。私は引きこもりといった精神的な問題を抱えている子どもたちにも長く向き合つてきましたのですが、彼ら彼女らのほとんどが、「小さい頃、父親と遊んでもらったことがない」と言うのです。

もちろん、それだけが引きこもりの原因になつてゐるのは言えませんが、私はちはもつと父と子の触れ合い、遊びの教育効果を見直していく必要があるでしょう。

それに母親にとつても、父親と子どもが遊んでいる姿は微笑ましいもの。先ほど雪国スクールでも、自然の中で様々な体験をするサマースクールでも、父親と子どもが一所懸命に遊んでいる光景をニコニコして見守っている母親の姿が非常に印象的です。子どもと遊んでくれる

父親は、母親にとつて力強い味方に思えます。

夫婦で心を合わせて 幸せな家庭をつくる

私自身も花まる学習会を始めた頃は、家庭がうまくいかない父親の典型で、生徒の母親たちに「（）してください」「（）してはダメですよ」というような説教ばかりして、「先生は青い」「先生は分かっていない」と言われることもありました。ただ、そうした母親たちに教えられ、また母親の心情を理解しようと自ら歩み寄つていくうちに、「ああ、自分が間違っていた」と気づくことができました。

しかし、なぜ妻の機嫌が悪いのか、なぜ子どもとく關係がつくれないのか、気づけないままに終わってしまう父親がほとんどのがいまの日本の現実です。経営者や弁護士の集まりで講演した時に、「いくら仕事で成功しても、妻一人、笑顔にできない男ってどう思いますか?」と問いかけると、皆しーんと黙ってしまいます。

そのため、これからも一人でも多くの子どもたち、家庭や子育てに悩む母親、父親の力になつていきたいと思つています。

いま日本に自立できない子どもが溢れているのも、子どもを巡る痛ましい事件が絶えないのも、根底には社会環境の変化による家庭環境の変化、家庭の崩壊があります。子育てを家族皆、地域全体で行つていた時代であれば、父親も自分の好きな仕事をしているだけで、働く背中を見せてはいるだけで家庭は成り立つたのかかもしれません。しかし、ここ四十年ほどで大きく世の中は変わりました。もはや父親が覚悟を持つて家庭に向き合わなければ、母親の笑顔も子どもの幸せも実現できないのです。

子どもを幸せにしたいという思いは、母親も父親も同じです。家庭や子育てを巡つて様々な意見の相違や対立があつたとしても、その一点は同じなんだとお互いに歩み寄つて、ぜひ母親と子どもの笑顔の絶えない幸せな家庭を築いていくほしい。

「母」にまつわる名言②

父母もその父母もわが身なり
われを愛せよ我を敬せよ 二宮尊徳

モンドク 江戸末期の儒家

父親の権威を立てないために、
どれぐらいの家庭で不幸が起つてゐることか。

「お父さんは偉いんだ」と

母親が子どもたちに少しでも仰ぎ見させる癖をつけておくと、いざ非行に走る段に、親父がガンといえば終わる。

「お父さんは駄目な人。

あんな真似しては駄目な人。
本当に駄目になる

渡部昇一

上智大学名誉教授